

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)

【公開番号】特開 2004-189951 (P2004-189951A)  
 【公開日】平成 16 年 7 月 8 日 (2004.7.8)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-026  
 【出願番号】特願 2002-361629 (P2002-361629)  
 【国際特許分類】

**C 0 9 D 13/00 (2006.01)**

**B 4 3 K 19/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 9 D 13/00

B 4 3 K 19/00 D

B 4 3 K 19/00 F

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 7 日 (2005.12.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、紙以外のガラスや金属、プラスチックなどの平滑な面にも筆記できる固形筆記体として、種々検討されている（特許文献 1 参照）（特許文献 2 参照）。その中で、酸化チタンを用いたものが知られている。通常酸化チタンは、白色顔料として隠蔽性が要求されるため、その平均粒径として 0.2 ~ 0.4  $\mu\text{m}$  のもの（特に 0.27  $\mu\text{m}$  前後）が一般的に使用されてきており、白色系の筆記体やパステル調の色調を得る時などに多く用いられるが、ガラスや金属などの平滑な面においても、酸化チタンを用いると固形筆記体に適度の磨耗が生じて、いわゆる面上へののりがよくなり、消去性も含めて良好な筆記性が得られるのである（特許文献 3 参照）。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【特許文献 1】特開平 4 - 1 3 9 2 7 5 号公報

【特許文献 2】特開平 6 - 1 8 4 4 8 8 号公報

【特許文献 3】特公昭 4 2 - 6 5 4 5 号公報（第 1 頁右欄の第 39 行目から第 40 行目）